

標注今義解校本

五



73
294
5



江 299

皇極經世一

神祇令第六

凡拾貳條の拾貳京本貳拾二作
り。二十條のくも凡天神
地祇より李冬云云まで、擡頭
したる行を皆別条として、九
條凡天皇即位より以下十一
條合て二十條と見よるもの
也。十二条のくも凡天神地
祇より李冬云云までを一條
として、凡天皇即位以下の十
一條と合て十二條と見よる
ものなり。然共擡頭したるを
以て別條とせむ事理よか
むねを今十二條のくも從
ふ。猶公式令よいへ。

標注令義解校本卷三

標注令義解校本卷三

神祇令第六

謂天神曰神
地神曰祇

神祇令第六

凡拾貳條

凡天神地祇者神祇官皆依常典祭之

謂天神者伊勢山城鴨住吉出雲國
造齋神等類是也地祇者大神大倭
葛木鴨出雲大汝神等類是也常
典者此令所載祭祀事條是也

仲春祈年祭

謂祈猶禱也欲令歲災不
作時令順度即於神祇官
祭之故曰
祈年也

天神地祇ハ和名抄ニ天神和名
安万豆夜之呂地祇和名久尔
豆加三或夜之呂とあり古事
記傳ニハ天神の方を安
万豆加三或夜之呂と云べき
事也といへり此れ依て天

神をアマツヤシロ地祇をクニツヤシロと訓べし即崇神紀より天社國社とあり天神も天に坐し神天より降坐し神をりし地祇ハ此國に生坐る神をりし

山城鴨と神名式山城國愛宕郡賀茂別雷神社名神大これ上社別雷神あり賀茂御祖神社二座並名神大これ下社にて別雷の母玉依比賣と大山咋神と也住吉ハ同式攝津國住吉郡住吉坐神社四座並名神大頭注し底中表筒男神功皇后也とあり出雲云云同式出雲國意宇郡熊野坐神社名神大とあり須佐之男命あり大神も同式大和國城上郡大神物主神社名神大とあり出雲國造神賀詞大

穴持命の和魂といへり是即美和の鎮座は御魂の名にて大穴持の一名とあり古事記傳二十一卷大倭ハ式二山邊郡大和坐大國魂神社三座名神大とあり大和を經營する功あり神也葛木鴨と式葛上郡高鴨阿治須岐託彥根命神社四座並名神大とあり大穴持の子也出雲大汝と式出雲國出雲郡杵築大社名神大
仲春より季冬までの季下の諸祭の名集解本注よりたもと
も京本のまゝ本文とは
祈年ハトシゴヒと訓む詔詞考云年と五穀の中専ら稻をいふ春種を水に浸はる冬收了まで一年を経る故也四時祭式曰祈年祭二月四日

季春鎮花祭

謂大神狹井二祭也。在春行禱為其鎮過必有此祭故曰鎮花也。

孟夏神衣祭

謂神伊勢神官祭也。此神服部等齋戒潔清以參河赤引神調糸織作神衣又麻績連等績麻以織敷和衣以供神明故曰神衣也。社祭也。

大忌祭

謂廣瀨龍田二祭也。欲令山谷水變成甘水浸潤苗稼得其全稔故有此祭也。

風神祭

謂亦廣瀨龍田二祭也。欲令冷風不吹稼穡滋登故有此祭也。凡讀此四祭者先讀神衣其次

三枝祭

謂率川社祭也。以三枝花飾酒樽祭故曰三枝也。

季夏月次祭

謂於官祭與祈年祭同即如庶人宅神祭也。

道饗祭

謂卜部城四隅道上而祭之言欲令鬼魅自外来者不敢入京師故預

鎮火祭

謂在宮城卜部等鑽火而祭為防火災故曰鎮火也。

祭神三千一百三十二座、
凡諸祭の中、祈年をくり祭
神の多きをもち、これ年穀を
祈て、天下を豊あらしむる祭
にて、國々の神社、大概預らざ
るゝとあさゆゑ、多きなり、順
度ハ、或云順序の誤。

鎮花の花、京本華、作る、古本及
貴嶺問答花、作る、従ふ義
解も同。

狹井、神名式、大和國城上郡狹
井坐大神荒魂神社、これ也、禰
を鎮む為、大物主の和魂大
神社と荒魂狹井社とを祭ら
せ給ふ、崇神紀、五年多疫疾
とありて、七年、大物主の教
に依て、大田々根子とりの者
を以て、大物主の祭主と給
ひける、疫病始息とあり、こ
の故事よりて也。

迎於道而
饗過也。

孟秋大忌祭

風神祭

季秋神衣祭

謂與孟夏

神嘗祭

謂神衣祭、日使即祭之。

祭同

仲冬上卯相嘗祭

下卯大嘗祭

謂若有三

謂大倭住吉大
神、穴師、恩智、意
富、葛木、鴨、紀伊
國、日前神等類
是也、神主各受
官幣帛而祭也。

卯者、以中卯為祭
日、不更待下卯也。

必有此祭の必字集解始、作る。

神衣祭、四月十四日也、太神宮式、和妙衣者服部氏、荒妙衣者麻績氏、各自潔齋、始從祭月一日織造、至十
四日供祭、とあり、釋云、其國有神服部等、齋戒淨清、以三河赤引神調糸御衣織作、又麻績連等麻績而敷和
御衣織奉、まゝ儀式帳、四月例、以十四日、神服部神麻績、神部等造奉太神御服、神服部織女八人、神麻績
織女八人、とあり、赤引糸、參河より調、奉りあり、儀式帳解、赤引明也、引糸を清めて引也、といへ
る、參河、太神宮神領ありて、太神宮式、參河國二十戸と見え、神鳳抄、參河、御調糸と載り、此
糸を以て、神宮機殿、於て織り、上、引釋、其國有神服部とあり、其國、伊勢の事、これを伊勢
に居住の服部氏、とて、和名抄、卷藝部服部とあり、まゝ麻績氏の事、古語拾遺、長白羽神、伊勢國麻績
祖、種麻、以為青和幣、と見ゆ、これ長白羽神の子孫、伊勢の麻績氏の祖、とて、麻を種て、これを以て、青和幣
を織り、より、まゝ種、より、方、ハ、まゝ、は、為、青和幣、とあり、方、ハ、まゝ、は、故、和名抄、多氣郡麻績と
あり、これハ、織り、所、ハ、伊勢、あれども、麻を種、より、伊勢、まゝ、は、拾遺、仍、今、天、富、命、率、日、鷲、命、之
孫、遣、阿波國、殖、穀、麻、種、其、裔、今、在、彼、國、當、大嘗之年、貢、木、綿、麻、布、及、種、々、物、所以、郡、名、為、麻、殖、之、緣、也、とあり、
一、依、る、麻、を、阿波、種、たり、と、天、日、鷲、神、の、孫、と、て、之、の、始、と、同、書、一、令、天、日、鷲、神、以、津、吹、見、神、云、と、見
え、これハ、日、鷲、神、と、起、れ、る、こと、と、ある、即、神、名、式、阿波國麻殖郡忌部神社、或號麻殖神、或號天日鷲神、
と見えて、阿波、麻殖、といへる、麻を殖、と、より、の、名、伊勢、麻績、といへる、麻を績、と、織り、より、の、名、
あれども、年々の四月、御祭料の麻を、阿波より奉り、伊勢、まゝ、は、麻績氏の織り、こと、參河、調糸、も、て、服
部氏の織り、と、同例、な、む、故、但、服部氏の織り、和妙の糸、參河の御神領より、直、伊勢、進、り、ゆ、
ゑ、其、由、義、解、注、ら、る、と、此、共、式、の、封、戸、の内、阿波國の无きを思へ、麻績氏の織り、荒妙の麻、彼國
より、直、伊勢、進、り、ぬ、や、あり、む、神鳳抄、阿波、葉の御厨、あれども、こゝ後、寄、ら、れ、る、あ、
へ、し、う、れ、る、麻、を、京、都、より、送、り、て、織、り、る、べ、し、中、古、ま、で、阿波、麻を殖、り、證、と、建、久、五、年、六、月

仲資王記云阿波國忌部久家還補氏長者件忌部者太祀之時職主荒妙御衣之氏云云と兼元五年九月業資王記云参河國神服阿波荒妙御衣云云ふどりを以て知べしと敷和し釋云宇津波多也といふ冠辭考敷織目の繁き意和てまごやうなることあれむ美織あり石原正明云敷織目の繁き義て何れぬどまきといふ詞の假字とて繁き意に見ゆるあり神明と合類節用集云今世在天照大神曰神明

三枝祭古事記其伊須氣余理比賣命之家在狹井河上と見え注其河邊山由理草多在故取其山由理草之名號佐葦河也山由理草之本名云佐葦とらう佐紀と佐葦と通ふゆゑ此草の名依て三枝祭といふ神名式率川坐大神御子神社三座この内一座ハ伊須氣余理比賣とて是大神大物主女あり

大忌祭大忌神を主として風神をも祭す天武紀四年祭大忌神於廣瀬河曲祠風神于龍田立野といはる即神名式大和國廣瀬郡廣瀬坐和加宇加乃賣命神社名神大これ四時祭式大忌風神祭並四月七月四日と見ゆ稻靈あり故先此月祭て穀の生立と成熟とを祈たきなり欲令の欲字京本死集解を以て補ふ

風神と級長津彦命級長戸邊命あり記傳纂疏と級長と息長といふむが如しといはる此神伊弉諾尊の息より成給へむ也と見ゆ神名式大和國平群郡龍田坐天御柱國御柱神社二座並名神大といはる風神を主として大忌神をも祭す苗の風傷ざらむ事を祈る祭也

冷風京本冷風と作る集解亦同本朝月令冷と作る共冷の誤字彙云陰陽氣亂曰冷音田又音例以下諸祭宜准此例の宜字古本は従ふ以下と道饗鎮火鎮魂大嘗等も此例を以てよむべしと也月次と毎月と云むが如し一年の月毎祭べきを省き約て六月十二月の二度祭る也四時祭式曰月次祭奠幣案上神三百四座並大殘輝云神祇官て今も行てり也

宅神ヤカツカと貴嶺問答訓土御門院御集云かき木の杜の下葉を折きてやうつ神をも祭る比々な宅神の事大被執中抄開題といへり

道饗祭六月晦日大被事畢て後行ふ道饗畢て同夜鎮火祭行ふ道饗ハ伊弉册尊の黄泉にて崩ませし時の穢より起る事とて穢あり邪神を京師入さるむる祭あり鎮火も日本武尊の向火と同意の祭あり委しくハ別記といへり

ト部等と等字を置てハ京城四隅一人苑てト部四人を用る故也小祭故ト部のミ也鎮火も同四隅道上と京城大垣外道はこれ外畔といふ古本拾芥抄云羅城十二丈垣基半三尺犬行七尺溝廣一丈東西南北如是といはる内垣基犬行溝て合て二丈を除き十丈の路四方と通下ていふこれ京の外郭の外也その四隅の角て祭也

宮城四方外ハ外重の外也宮城の北大路一條通南の大路二條通あり東西の大路を並大宮と云此一條の東西の大宮の角と二條の東西の大宮の角てト部等此祭を行ふ

鑽火京本鎮火と作る今集解は従ふ記傳和名抄火鑽和名比岐利凡て火を出は打と切との異あり中巻倭建命段以其火打而打出火といはる打火て尋常の如し上代より忌清る火は皆鑽出也今も大神宮の忌火屋敷て枯る檜の木口を切り其木口の中央より厚くつけて錐の柄の如くふる木を以てかの木口をみて火を出は也靈異記鑽岐里又母美といはるキルハ輾磨也

相嘗の言義大嘗の標注といへり
穴師神名式大和國城上郡穴師坐兵主神社名神大月次相嘗新嘗意富同式十市郡多坐弥志理都比古神社二座並名神大月次相嘗新嘗といはる思智同式河内國高安郡思智神社二座並名神大頭注御食津神也といはる日前同式紀伊國名草郡日前神社名神大月次相嘗新嘗との外の諸社ハ上注せり
ふり四時祭式相嘗祭神七十一座と有ていと多し故等類是也といへり

神嘗外宮九月十六日內宮同日十七日也義解云神衣祭日云云の事別記云一へり使字京東二本便了作今集解を以て改む

鎮魂之事別記云一へり大嘗の注云謂若百二卯者云云の十八字義解の文は非以旁書攬入也鴨祐之いへり大嘗の後世所謂新嘗也後世し毎年行ふを新嘗といふ踐祚を行ふを大嘗と云此今もて其別あり共大嘗と云但皇極紀云元年十一月丁卯天皇御新嘗是日皇子大臣各自新嘗と見えて制令より以前朝家のを新嘗といへる事あり何れもど今制の時かく大嘗と定むれども祭神の相嘗よりみれども祭神の

寅日鎮魂祭

季冬月次祭

鎮火祭

道饗祭

前件諸祭供神調度及禮儀齋日皆依別式其祈年月次祭者百官集神祇官中臣宣祝詞謂宣者布也祝者祝詞宣聞百官忌部班幣帛謂班猶頌其中故曰宣祝詞也臣忌部者當司及諸司中取用之也

凡天皇即位總祭天神地祇

謂即位之後仲冬乃

祭下條所謂大嘗者每世一年國司行事是也散齋一月謂

冬之月自朔至晦也致齋三日謂自丑至卯也

為散齋故下條云致齋前後兼為散齋也其大幣者三月

之內令修理訖謂大幣者供神幣物各有色目金麻桐金

線柱奉伊勢神宮楯戈奉住吉神之類是也三月之內者唯據月言不以

月計即始自九月終十一月也修理者此言新造也

凡散齋之內諸司理事如舊不得弔喪

と多くて大嘗祭あり大嘗と云は新嘗を云ニヒアへとよむ是を約きてニヘたりゆゑ大嘗をオホアへとよまでオホニへと云字類抄云三ニノマツリと訓るも此義也當年の新嘗を嘗と云祭して今世俗間の秋祭と云はるは微へり也四時祭式は新嘗祭奠幣案上神三百四座並大社一百九十八所と見えりも月職貢令神祇官條は合せ者べしと此條の讀法は種々の説あり穴云孟夏仲冬等注先讀上二件了乃至下注為長一云先神衣次大忌次三枝仲冬注相嘗次鎮魂也但先讀寅日祭乃可讀下卯日而先讀大嘗者依職貢令所次先後耳又季夏季冬道饗祭是

晦故曰是説為長也云云穴の前説もまづ上ノ列とて讀む事孟夏の件の義解凡讀四祭云云と
了よかふへはは徒たべき事論をままとと終つううれれを仲冬の件も上卯寅日下卯と讀よき也然しかるる一云の
説を擧あげ職負令を證あげ引ひきと孟夏の件の義解以下諸祭宜なま此例と見え又職負令集解し神祇令
者依祭先後為次故鎮魂居大嘗之上隨事設文不な一例いととららるる大嘗の上う鎮魂しんの證あげられ一
云をを用よべいととす

別式に續紀天平寶字三年六月丙辰石川朝臣年足奏曰臣聞治官之本要據律令為政之宗則須格式方令
料條之禁雖著篇簡別式之文未有制作伏乞作別式與律令並行まとと同六年九月乙巳石川朝臣年足薨
上便宜作別式二十卷各以其政繫於本司雖未施行頗有據用と見り是を以て思おもへと皆依別式しととら
せせととたた其掌たり官司くとと書留してて底こてて撰令の時し未成文なととあありりを年足奏ありり作あり
るる款く但たここも未施行しととららるる世よ行いれれるるととららるる以其政繫於本司しととららるる延喜式しの如ごとき
のあり一よ也

百官集神祇官宣祝詞穴云百官謂男官也或一人或舉司並不見文也朱云主典以上每司一人許可奉まと
宣祝詞しとと能理止しハ告説言の約め也跡し祝詞者法の言也といいへり穴云中臣宣祝詞者時行事宣奉
集の社々祝部等也この説の如し祝詞式し祈年しも月次しも首し集侍神主祝部等諸聞し食し宣しととら
りてこの祝詞と神主祝部等各の奉仕の社々持りへり神前し申奉りるるの意也義解宣開百官と
ららるる誤なり

中臣心部し釋云忌部是神部也此日忌部二人掛木綿繩而隨し呂祝部名を而を分を充幣帛穴云班謂班諸國也朱
云中臣忌部並に在に神部之中也

幣帛しテテとと訓む三しテと御手向の約也クラと古神し獻しのまとと人し贈ふととららるる物と凡てクラと
りり千位置戸の位もとと儀式大嘗會し倉代十輿し續後記し倉代物五十荷ふとの倉これ也なり得記傳し

見ゆ靈異記し幣帛美天久良とりとて上まるる凡天神云云り忌部幣帛を連つぎつ文て一条
ありとと既し云しが如し

凡天皇即位云云致齋三日以上し即位年の大嘗の事也其大幣者以下し即位し就ての大奉幣の事也分
ち者べし委く別記しいへり

敬齋荒忌致齋真忌と圓大曆觀應二年三月十日件見ゆとと貴嶺問答しわくいへり朱云散齋一月
謂不計日也

金麻桶の麻京本水し作る集解を以て改む太神宮式云金銅麻笥二合口徑各三寸六分二尺徑二寸八分深
二寸二分まとと金線柱と和名抄蠶絲具と絡塚和名多々利太神宮式し金銅多々利高各一尺一寸六分
土居徑三寸六分石葉と續麻之太多利まとと是也らくく麻桶線柱を奉りとと姫神よて神代記し天照太
神方織神衣居齋服殿まの故事し依て也指予の指京本桶作るとと誤也也伊吉し指予を奉りと男
神よて三蟬退治し御靈を幸ひ玉ひとと依て也

諸司理事云云穴云諸司謂官人也依假寧令給假以上色者皆退耳まとと不得申喪問病食突とと喪を吊て
死家し入きとと擲し且其悲哀のととみ心奪れて祭事の懈怠出來むを恐そととららるる穢し甲乙丙
の三種ありて延喜式し載たり委く太教執中抄しいへりまとと病を問しとと其病者を哀憐んと心深
くありて祭事の懈怠の情出來るととららるる是を禁せりと下し不決罰罪人とららるる此情し同しまと食
突を禁らるる美味あり故ととと心を奪れて祭事の懈怠ありとと依て也下し不作音樂とららるる

樂と音の優ありものち故と食突同意もて禁せりと也とれを問段問病決罰罪人ハ哀傷の
深きし就て也食突作音樂ハ耽樂の深きし就て也哀樂共し心より起るものふれとと此條むねと心を
禁める物也祭祀ハ大事なり誠敬の心を盡すとと神明の感應ありべし外ハ心のうつり所
ありと誠敬ハ盡ととぬゆととわる禁を建るとと是を穢とせりととららるる穴云職制

律云凡大祀在散齋而吊喪問
疾判署刑殺文書及決罰食兵
者皆五十奏聞者杖七十是也
食兵之事別記いへり
不作音樂と云朱云雅樂察不得
行職掌欵答然也
不預穢惡之事釋い假如校詞所
謂上丞下丞之類といふ是
のいふは凡て天罪國罪
皆穢惡の事也

唯祭祀事京本祀字无集解
い東本こは引るは唯為
官年中行事引るは唯為
祀事といふ其致齋間と諸政
を廢てた祭祀の行ふ也
故い自餘悉斷といふ朱云雖
不預祭事百官皆止耳
上條の上字京本脱せし集解を
以て補ふ
天神之壽詞云云持統紀四年正

問病 謂有重親喪病者
不在預祭之限也 食肉亦不判

刑殺不決罰罪人不作音樂 謂不作
絲竹歌

不預穢惡之事 謂穢惡者不淨
之物鬼神所惡

致齋唯祭祀事得行自餘悉斷其

致齋前後兼為散齋

凡一月齋為大祀 謂上條云散齋一月
即此條稱齋者皆散

齋也唯於一日齋更無散齋
其致齋者皆在散齋限内也 三日齋

為中祀一日齋為小祀

凡踐祚之日 謂天皇即位謂
之踐祚祚位也 中臣奏天

神之壽詞 謂以神代之古事
為萬壽之寶詞也 忌部上

神璽之鏡劍 謂璽信也猶云神明之
徵信此即以鏡劍稱璽

凡大嘗者每世一年國司行事以外每

年所司行事 謂所司者在京諸
司預祭事者也

凡祭祀所司預申官 謂所司者神祇官
也預申官者即一

日齋亦須 官散齋日平旦頌告諸司
預申之也

月朔中臣大島朝臣讀天神壽
詞畢忌部宿祢色夫知奉上神
璽鏡劍於皇后皇后即天皇位
也此壽詞詔詞式載也
此王勝間台記の内より按
て載たり神璽之鏡劍
て鏡劍二種を璽とせし實
に神璽と三種にて此二種の
外は八坂瓊之曲玉なり公式
令天子神璽寶而不用とい
ふ即曲玉也故義解此
即以鏡劍稱璽といへり此
字ハ彼に對は彼と云公式令
あり玉璽をさし彼玉璽と
この鏡劍と合て三種あり委
しハ公式令の標注及職原標
注の別記いへりさてかく
壽詞を奏し鏡劍を奉るは踐
祚の日の故事ありを儀式大
嘗祭辰日條に神祇官中臣捧

賢木人自儀鸞門東戶就版跪
奏天神之壽詞忌部令奉神璽
之鏡劍共退出と見えて後ハ
大嘗の時の事と見えて是
ニ就て跡穴等の説はれど其
文誤脱多けきを引ば

凡大嘗この大嘗と踐祚の年の
と當年のとを合ていへりこ
るに依て毎世一年といひ毎
年といひて別たり毎世一年
あると上は凡天皇即位惣祭
天神地祇云云これ也毎年ふ
るハ上は下卯大嘗と云ふ是
なり

國司行事の國司也悠紀主基の
國司也御代始抄云悠紀と齋
忌とハ心也主基と次と云
字をスキと訓り次の神齋也
國郡卜定也二月より九月ま
てハヶ月の内ハ毎月其例ハ

云云これと天武紀五年ハ
齋忌則尾張國山田郡次丹波
國訶沙郡と見えて私記ハ師
説次於齋忌と云ふは依玉へ
る物なり次字ハスキの假字
あるに言義と濯のスキを約
てスといへり也悠紀のユヒ
イムの約あるに對て知べし
悠紀主基共ニ名異あるにミ
よて少くもけぢめ無く同ハ
事あるに於齋忌と云ふハ
ハ

散齋日平旦弘仁二年二月六日

格云散齋之日平旦領告諸司
諸司未兼事之前或有犯禁忌
之徒宜改令條散齋之前一日
領告諸司自今以後永為恒例
云云祭日の平旦とて其告
の无き間ハいふ事ある事ハ
らむもとかり難けきを前日

凡供祭祀幣帛飲食及菓實之屬所司

長官親自檢校必令精細勿使穢雜

凡常祀之外須向諸社供幣帛者皆取

五位以上卜食謂凡卜者必先墨畫龜然後灼之兆順食

者克唯伊勢神宮常祀亦同

凡六月十二月晦日大祓謂後者解除不祥也者

中臣上祓麻東謂東漢文直西漢文首也西文部

上祓刀讀祓詞謂文部漢音所讀者也訖百官

男女聚集後所中臣宣祓詞卜部為

解除

凡諸國須大祓者每郡出刀一口皮一

張鍬一口及雜物等戶別麻一條其

國造出馬一疋

凡神戶調庸及田租者並充造神宮及

供神調度其稅者一准義倉謂租稅者並是

田賦唯新輸曰租經貯曰稅皆國司

神戶の事職負令に見ゆ。天武紀六年五月己丑。敕天社地神稅者。三分之一分擬供神。二分給神主。と有り。此條。神主に給ハル事見え。大寶の改制。まこと供神調度の内。こもる。さて神戶。と。百戶。と。ても五十戶。ても。寄附の民。増減。无き例。ても。増せ。と。公。収め。若減。と。公。より。加へ。玉ふ。續紀。養老七年五月制。神戶當造。籍帳。戸。无増減者。依本為定。若有増益。即減之。死損。即加之。と有り。如。ま。と。逸史。延曆十年七月格。自今以後。神戶限以三丁。田租定十五束者。丁減少。供祭應之。宜天下諸社。同共弛張。丁并租數。依舊例。と見え。と。と。租稅の事職負令。いへり。申送所司。朱云。所司謂神祇官。

上觀玄象云云。こはらの事。僧尼に限らば。古ハ俗人。も禁らば。也。職制律。凡玄象器。物天文圖書。讖書。兵書。七曜曆。太一雷公式。私家不得有。私習者亦同。この條。合せ看へり。

災祥釋云。災祥二也。と有り。災。天反時也。神祇令義解。歲災不作。時令順度。と有り。これ。違ふ。と云。祥ハ吉。ても凶。ても。其氣の豫現を見ゆ。と有り。義解の如し。雜令義解。吉氣為徽祥。妖氣為災異。と有り。とハ。と。と。別あり。妖言の二字。壺井本。依て加ふ。義解。過誤。為妖言。と有り。と。以て。本文。此二字の脱。と有り。を知へり。一人の一字。京本。萬。作。了。誤也。一本。三。作。了。又非也。今集解。

僧尼令第七

凡貳拾漆條

凡僧尼上觀玄象假說災祥妖言語及

國家妖惑百姓

謂天文為玄象也。非災也。吉凶先見。為祥也。過誤。為妖言也。語及國家。不敢斥尊號。故託曰國家也。言假說之語。關涉人主也。妖惑百姓者。以假說之言。惑一人以上也。其自觀玄象。至妖惑百姓。惣是一事。相須得罪也。若上觀玄象。所說有實。及非觀玄象。說他災祥。并雖說。玄象而不惑人者。並入下條也。并習

一徒ふ、三作を、ハ史記注
一獸三為羣人三為衆といひ
て、賊盜律、以惑衆者亦如之
其疏、惑三人以上者といひ
外、も三人以上と衆ちるよ
一いへるを以て、妖言して衆
人を惑ハハ事と見ゆる也、
凡と未、妖惑一人以上、是不
有三人以上也、文不稱衆故也
といふ、一徒ふべし、

入下條とも次ちるト相吉凶條
の還俗をさす
殺人奸盜、古記云、奸謂娶亦同
為、无妻法故也、盜謂強盜、不得
財亦同也、穴云、戲殺等皆為難
犯、不入此条
四果、古記云、此小乘果謂四果云
云、亦くいへる、大乗四果と
り、いひのちありき也、まご古
記、總言之初二三四果也、ま

九釋、一曰預流果、二曰一來
果、三曰不還果、四曰羅漢果、
凡と四果と云、此第四の羅漢
果に至れる、小乗の極也、淫
槃、四果の定り、一須陀洹
此翻預流、此位斷三束八十八
使見惑見真諦、故名為見道、又
名聖位、二斯陀含、此云一來、此
位斷欲界九品思中、斷前六品
盡、後三品猶在、更一來、三阿那
含、此云不還、此位斷欲殘思盡
進斷上八地思、四阿羅漢、此云
无學、又云无生、又云殺賊、又云
應供、此位斷見思俱盡、縛已
斷、果縛猶在、名有餘涅槃、若灰
身滅智无餘涅槃、略明聲聞位
竟、と見ゆ、されを羅漢果、四
果の極也、
皆先還俗以下百字、京本脱、今集
解を以て補ふ、還俗の事ハ、刑

票主令長解交本卷三

讀兵書

謂雖不_レ成_レ業、亦是、若畜_レ之、而
不_レ習_レ讀、及畜_レ餘、禁書者、亦入_レ

殺人奸盜

謂若殺_レ及奸_レ家人、奴
婢、并奸盜未_レ得者、並

下條

及詐稱得聖道

謂四果聖
人之道也、並依

法律付官司科罪

謂不論罪之輕重、
皆先還俗、何者、案

道僧格、犯_レ詐稱_レ得_レ聖道等罪、獄成者、
雖會_レ赦、猶還俗、故必先還俗、其僧尼
還俗、猶俗人、除名、依律犯_レ除名者、罪
雖輕、從_レ例、除名、罪若重、仍依_レ當贖法、
准_レ此、言_レ之、僧尼詐稱_レ得_レ聖道等者、罪
雖輕、猶還俗、不可_レ更論本罪、罪若重、
者、仍依_レ以_レ告
牒、當_レ之法也、

凡僧尼卜相吉凶

謂灼龜、曰卜、視地、
曰相、占筮、亦同也、及

小道

謂厭符、
之類也、巫術、
謂巫者之方術、既

小道

具言、是並、雖不_レ終_レ事理、而
已、始行_レ者、皆處_レ還俗也、療病者皆

還俗其依佛法持咒救疾不在禁限

凡僧尼自還俗者三綱錄其貫屬

謂還
俗者

先已還俗、訖_レ者、非_レ今始_レ還俗、故下文
云、三綱師主、隱而不_レ申_レ也、三綱者、上
座、寺主、都
維那也、京經僧綱、自餘經國司、並

申省除附若三綱及師主

謂依心、師
是也、自為

止

部式云凡僧尼犯罪應訊者皆
擣衆證定刑不須摠拷其應還
俗者具注本貫姓名年紀臈數
移送治部民部等省除附帳籍
道僧格も唐の格文あり今傳ら
ば

俗人除名も名例律に委し官位
勲位悉く除るるを除名と云
仍依以告牒當之法と俗人の
當贖の法に倣へり也俗人除
名を犯たるは罪猶重くて餘
罪あり時ハ銅を以これを贖ふ筈五十の贖銅五斤杖一百の贖銅十斤ふとの如し僧尼還俗を犯るる
がふ餘罪ありふし俗人と異りて私物无きゆゑ贖銅を出し事能く是に依て告牒を以て當らふ
小道云云し小道と巫術との二事を以病を療り僧と還俗と也義解の厭符二事也賊盜律云凡有所憎
惡而造魘魅及造符書咒詛欲以殺人者各以謀殺論減三等といへり即魘魅と符書と也但後成抄ハ厭
魅今案厭符魅謂邪氣使狐狸之類也これに依きて厭符一事也古記云巫術謂卜者筮者行事耳宋云巫
術謂祭神而療病耳還俗之後更不可科罪

持咒救疾古記云持咒謂經之咒也うくれを經中の咒文に依て疾を救ここと禁せられざる也但續紀靈
龜元年四月壬辰件僧尼依佛道持神咒以救病徒施湯藥而療痼病於令聽之と見えとせと湯藥を用
て病を療りし事ハ今條に文ありこと輕き事あり故に省ける物也同紀養老五年六月詔ハ沙門法蓮

白衣一時服事者也出
家以後受業亦同也

隱而不申三十

百日苦使

凡僧尼將三寶物餉遺官人
謂三寶者
佛法僧也

凡僧尼將三寶物餉遺官人
謂三寶者
佛法僧也

心住禪林行居法梁尤精醫術濟治民苦善哉若人何不褒賞其僧三等以上親賜字佐君姓とあり既ハ醫
術を行むるも湯藥を用ひふと勿論あり故に同紀天平寶字七年五月戊申大和上鑿眞物化皇太后不
愈所進醫藥有驗授位大僧正と見ゆ湯藥の禁るゝぬ事如此穴云問依醫方治者何答云依道術符禁
湯藥救療者今除湯藥字明湯藥不還俗但為非持咒故今有異科額云從違令也釋云前令制湯藥今令不
在制限うれを前令よて湯藥を以て病を療りし事も僧尼の所行にあらざる故に還俗を科せざ
ども此令よも湯藥の字を除るるゆゑに還俗よに至らば但額よて僧尼に相應る持咒の
ごふゆゑを以て違令を科らるるゆゑに湯藥の字を除るるゆゑに違令よもいひ
がつかむ歎續紀の如く褒美とへりれははる釋よ不在制限といへるは從ふべし
三綱僧史略云三綱寺之設也若綱罟之巨綱提之則正故云也梵語摩帝悉晉那羯摩陀那華言寺主上座
悅衆也詳其寺主起乎東漢白馬也寺既人必主之于時雖无寺主之名而有知事之者東晉以來此職方盛
上座取其鴈翰局者充之都維那者寄歸傳云華梵兼舉也維是綱維華言也那是累梵語刪去羯摩陀三字
也また六典ハ每寺上座一人寺主一人共綱統衆事
貫屬とハ本貫と親屬となり
僧綱釋云僧正僧都律師也この三官即僧中の棟梁釋門之長者也その集會の司を綱所と云
申省除附古記云省謂治部省穴云案之省受取即申官官下民部民部下本屬除附耳これ僧尼の名帳を除
て俗人の戸籍に附る事也
依心東本依止よ作ると誤白衣ハ緇衣に對せし語あり在俗の時をいふ
五十日苦使云云これ隱りたる
者を罰りし也さるる還俗は
せむ本の民戸に歸る公家も

餉遺者無心屬請直將送與若送私
物一妄相囑請者亦同官人者内外百

於てハ得たりて夫あり然ら
む隠したる者をも罰し玉ふ
まじきまことハこれ私度
を禁ひる也下冒名相代條
及移名他條あり合せて立制
の意を曉るべし殘暉云還俗
は咎無し隠せる者も咎あり
也

三寶者佛法僧也これ佛物法物
僧物の三ありといへり也法
隆寺流記云佛分肆佰肆拾陸
石捌斗參升伍合法分伍拾參
石貳斗聖僧分貳佰捌拾石參
升かくの如く古ハ三寶の物
其別あり也

若送私物妄相囑請釋云將私物
送為囑請亦同无所囑請者非
也穴云令意以三寶物送者雖
无囑請尚坐之尋其心者為防
囑請然則以私物送亦為防囑

請尚可苦使其所受官人依囑
請者依枉法不枉法科不依囑
請者可科坐贓其將眾僧供養
料餉者亦是三寶物但已分之
後者依盜法也物不滿一尺无
罪也諸贓不足一尺无罪故但
依囑請者依下條耳送直人及
自用物做同居卑幼用財也こ
の説にて詳也囑と字彙に音
祝託也付也と見えて人ノ事
を託したるむと云古記に不
送物直囑請者依下條十五日
苦使とあり下條と凡僧尼
有事云云妄相囑請者十五日
苦使と見えて義解唯止囑
請者即是也とありと指す
あり

同居卑幼用財之法とし己より
も位卑く齧釋あり親屬の同
居いたるが己の財を取つう

官主典以上若遺九人并自用者須
准同居卑幼用財之法其三寶物混
在一處未經分割故不科盜罪若僧
物分訖訖而盜者依凡盜法其同財第
子盜者亦從同居卑幼之律也
若合構朋黨擾亂徒

衆謂假有一邪僧欲排寺主招引黨
類合謀潛害互相撥毀亂人視聽
之類

及罵辱三綱陵突長宿謂罵者
辱者恥辱也陵者慢易突者猝欺也
長宿者長老宿德也其罵辱者重陵
突者輕長宿既尊三綱稍卑即
明陵突三綱者不合苦使之也

者百
日苦使若集論事辭狀正直以理陳

者不在此例

凡僧尼非在寺院別立道場聚眾教化

謂道場教化相須還俗若雖立道場
而不教化者須下科違令毀去道場也

并妄說罪福謂在寺院
而妄說也**及毆擊長宿**

者皆還俗謂擡上條長宿三綱尊卑
既異今此條唯舉尊者故

毆卑者不可還俗自須准毆傷輕重
依格律條論但不可輕於罵辱之罪

其凡僧相毆者
國郡官司知而不禁

止者依律科罪謂不禁止者犯上三
事已過之後知而不

ひつり事也唐戸婚律同居卑幼私用財者十四笞十十四加一等罪止杖一百

罵辱古記云謂罵也凌突謂如梅語阿奈豆留也

粹欺の粹字京本脱きり王篇云言倉卒暴疾也突也

長宿古記云一説長者而有宿德也穴云長宿謂有智足敬人也无智老人非也假每寺可有長宿耳釋氏

要覽云長阿含經云有三長老謂昔年長老年屬多者法長老了法性内有智德作長老假號之者と見えたりこの長老と即この昔年と法との二長老あり

論事云云以理陳者古記云論事寺内雜政之類陳下集解諫字あり

道場釋氏要覽云肇曰閑宴修道之處謂之道場隋煬帝敕遍改僧居名道場續紀延曆元年六月乙卯敕曰京畿定額諸寺其數有限私自營作先既立制比來所司寬縱曾不糾察如經年代无地不寺宜嚴加禁斷自今以後私立道場云云主典已上解却見任自餘不論陰贖杖八十官司知而不禁者亦與同罪この先既立制とあり即この本文の事也

違令雜律云違令者笞五十法曹至要云案之令有禁制律无罪名者謂之違令云云僧尼の違令は俗人より准

以り苦使五十日あり

妄説を釋不限院内外妄説者即還俗耳

毆擊の毆字一本毆は作非也山田氏云毆音區逐也毆於古切捶擊也毆毆音義俱別也

唯舉尊者の尊者ハ長宿あり卑者ハ三綱あり

依格律條と僧尼を罪を犯さぬは定りし者あり故に格律の條目ハ皆俗人の為に設けし物ありを僧尼若三綱以下を毆とす時其傷の輕重に依て俗人の格律に准し重くは流死し至るべし輕くは杖笞も止るべし其俗人の杖笞も止るべし僧尼の苦使に當る故に杖笞も當る罪ありを還俗に至らば但長宿の師と同らるるを毆擊したるは其傷の輕重を云は皆還俗也名例律に

僧尼若於其師與伯叔父同も鬪訟律凡毆兄弟者徒一年半傷者徒二年折傷者近流刃傷及折支若

瞎一目者絞死者皆斬置者杖八十伯叔父加一等即過失殺傷者各減本殺傷罪二等とあり俗人の格

律にこれに准へ知べし

上三事とあり立道場と説罪福と毆擊長宿との三事也三事を犯さる僧尼も還俗ありを後知ふが

ら不糾ま其時は禁止とありの依律合與同罪也と見ゆこの名例律に稱云云與同罪者止坐其

罪とあり然も犯者と同罪とすべきを犯者と僧尼もれを苦使也官司ハ俗人ゆゑ苦使を科らざれば

これに依て科違令罪也

所部有犯法云云ハ鬪訟律に監

臨之司知所部有犯法不舉劾

者減罪人罪三等注云謂里長

以上知所部之有違法令格式

之事不舉劾者減罪人罪三等

假有人犯律一年不舉劾者得

杖八十之類とあり劾字は王

篇に劾胡盖胡勒二切推劾也

と見ゆこの胡勒切あり

陶練とス三子ルと訓む喰ま

ぬき物をも喰ひ著まぬ

き衣をも著ぬをのり也

午前捧鉢と釋氏要覽云僧祇律

午前捧鉢と釋氏要覽云僧祇律

午前捧鉢と釋氏要覽云僧祇律

午前捧鉢と釋氏要覽云僧祇律

糾若知其始犯而不禁止者依律合

與同罪也依律科罪者科違令罪但

毆擊長宿以至徒以上而知不糾者

科下知所部有犯法而不舉劾之罪也

其有乞食者三綱連署經國郡司勘

知精進練行而謂精進者慇懃也言

也練者陶練也言陶練

情性而以求解脫也判許京内仍

判許京内仍

云時食謂時得食非時不得食今言中食以天中日午時得食當日中故言中食云云午時日影過一髮一瞬即是非時也見之者僧尼八午時一度亦見之者食事不得也故云齋宮式的忌詞也齋食之片食といへるは世人ハ朝夕兩度あり是は對て一度ありは片食といふ若午時を過て喰へる畜生食といふ非時といふ云て佛戒を犯さるとは鉢ハ梵網經疏ハ梵言鉢多羅此云應量器云と釋云鉢鐵器所以盛飯也

乞餘物也釋云乞餘物科違令三等以上云云等親の事儀制令あり跡云近親謂三等以上但依義五等以上亦令取也未成人戸令を按るは十六以下は不課あり故取て侍者と云十七以上廿以下は中男なり賦役令云次丁二人中男四人各同一正丁なり中男以上は服役の人なり未成人と云べしねをまじ童子は充へり續紀養老元年六月丙辰詔は依令僧尼取年十六已下不輸庸調者聽為童子凡僧尼飲酒云云少飲ても三十日苦使も一醉亂に至れを還俗也然るは後世令條行はぬまじ僧家も私免して飲酒は台記久安二年五月十七日比枝御幸は坐主申云山霧於人有毒飲酒消之云中堂禁酒者禁醉也まじ御室右記は於酒一種不可禁止大師既為病比丘免之給了上古尚以如此末代何不放

經玄蕃知並須午前捧鉢告乞不得

因此更乞餘物謂衣服之類也

凡僧聽近親謂三等以上餘稱也郷里謂本郷也

凡僧尼飲酒云云少飲ても三十日苦使も一醉亂に至れを還俗也然るは後世令條行はぬまじ僧家も私免して飲酒は台記久安二年五月十七日比枝御幸は坐主申云山霧於人有毒飲酒消之云中堂禁酒者禁醉也まじ御室右記は於酒一種不可禁止大師既為病比丘免之給了上古尚以如此末代何不放

哉といふは古制に依りて服五辛の服一本及貴嶺問答よりて補ふ

舍生之肉ハ猪鹿小魚皆是也一曰大蒜云云大蒜ハ字鏡字類抄等皆於保比留と訓り應神紀に比蘆集解云止蒜是也よりバもととたヒルとの云一と後ハ小蒜の小一對て大字を加へ稱するべし和名抄云葫一名蘆大蒜也といふ蒜然る蒜當今俗行者忍肉也和尚抄ハ葱有數種山葱曰葱と有る依をて式の山蘭即是故慈葱集に止葱也といふ和名抄葱和名紀といふ根を專らばるより根葱と云分植より分葱と云共は是也蘭葱ハ集に澤蒜今云野蒜也而蘭

貫取信心童子謂未成人之稱也供侍至年

十七各還本色其尼取婦女情願者謂不限年之長幼但取於近親郷里也

凡僧尼飲酒食肉服五辛者謂飲酒者不至醉亂也食肉者廣包含生之肉也五辛者一曰大蒜二曰荖葱三曰慈葱四曰蘭葱五曰興華也

三十日苦使若為疾病藥

今所須三綱給其日限若飲酒醉亂

及與人鬪打者各還俗謂若本罪徒以上及僧尼

葱今小蒜と見ゆ古事記に葱毘流和名抄蘭蒿阿良々木これある一山野に生る故に野蒜と云園種の葱葱ふとの稠に比ふれと甚く疎々生る故にアラギと云然に此蘭葱を義解にアサツキと訓ふハいうハ和名抄に島蒜和名阿佐豆木とあるに依るは欽但島字をアサと訓むと東雅に韓國方言といへばと集に搗蒜者朝津葱也和名抄に搗蒜和名比流豆木とあるにヒルツキとも云やさてハ朝津葱の朝ハ假字にて淺葱也比流豆木の比流も假字にて蒜葱也ツハ共ハ助辭也是皆蘭葱の同物異名なり興渠ハ集解に吳母也高僧傳に興渠多説不同或云薑薑或云阿魏唯淨土集中別書出云五辛此土唯有四一蒜一韭三葱四薤關興渠と見ゆこれハ漢土と興渠ハ元とや和名抄に興渠を載はて懷香一名懷芸和名久禮乃於毛と見えたりと集の吳母とあるに合て此方にも興渠ハ无き故に懷香を代用したる欽さて諸本を校するに集にハ葱葱の葱を葱と作り法曹至要にハ韭と作葱葱を集至要共の角に作り今京本及本草等に従ふ本草李時珍の説に五辛を載て辛薑之物生食増志熟食發燥有損性故絶之ま抄にも報應經を引て有病在伽藍外白衣家服已滿四十九日香湯澡浴然後許讀誦經論ま右記に五辛肉之類堅守此式後侶无廢若病中自服之時點寺院之外屋可有此療服也

本罪徒以上云云僧尼の俗人と闘打したるが徒以上に至らざる及僧尼の相闘打せざる並に下條に依ると也本文ハ俗人と闘打の事あるを義解に僧尼相闘打を添たるハ集に依本文云與入闘打然僧尼相闘者猶入此条何者以忍辱法難為闘打故と云り如一本罪とハ俗人の法律にて闘打律に凡闘打人折齒決耳鼻眇一目及折手足云云傷人者律一年と有僧尼も是に準ふ下條ハ凡僧尼有犯准格律合徒年以上者選俗云云と云

相闘打者 依下條也

發再犯といへる如く所司は縁に於て表啓を上り并に官家を擾亂して妄に囑請し

凡僧尼有事須論不縁所司輒上表啓

謂有事者寺家事也所司者治部玄蕃其外國可經國司也并擾

亂官家妄相屬請 謂不縁論主司許與

者是 者五十日苦使再犯者百日苦

使 謂已發再犯與律更犯其意同若

先上表啓後妄囑請者亦是再犯

文為兼兩事之文故其第三度犯者

更始五十日苦使第四度犯者百日

苦使與三犯徒流之律其義同若二

罪以上俱發者亦依律取例其前後

四度累犯而一度惣斷者不得

過二百日何者為准杖法故也 若有

度犯を更始として五十日
苦使第四度犯を更始の苦
使未科より内も更始の
再犯ゆゑより百日苦使也
これ三犯徒流の同一三犯徒
流といふ賊盜律凡盜經斷後
仍更行盜前後三犯徒者近流
三犯流者絞とて三度徒
を犯すと三度目より流の處
一三度流を犯すと三度目
に絞の處より徒罪も流罪も
三度科ること無し苦使もか
くの如く再犯百日を二度し
科をれども三度ハ科さぬ也
若一罪以上とハ二罪より以上
也上表啓と相屬請との二罪
も前文にて明ふるとをれよ
り以上三罪ハ四罪も發ゆる
をり

為准杖罪故也抄云疏議曰漢景帝以笞者已死而笞未畢改三百曰二百二百曰一百奕代沿流曾无增損爰

官司及僧綱斷決不平理有屈滯須

申論者不在此例

凡僧尼作音樂及博戲者謂雙六擲蒲之類也百

日苦使碁琴不在制限

凡僧尼聽著木蘭青碧阜黃及壞色等

衣謂木蘭者黃橡也青碧者碧亦青色也壞色者失錯常色漫壞非全

餘色及綾羅錦綺並不得服用違

洎隋室以杖易鞭今律亦累決笞杖者不過二百蓋循漢制也愚按唐律及本朝制杖罪自六十至二百謂不
過二百者本漢法而言也

音樂及博戲古記云音樂謂不相須與律作樂少義異也博戲謂武習力競之類亦不聽與俗人少異也博戲者
雖不賭亦苦使梵網經云佛子不得聽吹貝鼓角琴瑟乃至伎樂之聲不聽擣蒲圍碁一一不得作若故作者
犯輕垢罪疏云菩薩為道應惜寸陰虛度時節制為罪也道僧格云作音樂及博戲者百日苦使若相取財物
者還俗也此條の事は別記にいへり

其碁の琴ハ古記云七弦貴嶺問答云琴者唐也新羅和琴非也

木蘭云釋氏要覽云律有三種壞色謂青黑木蘭抄云青謂銅青黑謂雜泥即溝瀆中泥木蘭即樹皮必
藉六物圖云木蘭皮可染赤黑色これを佛家にては青黑木蘭の三色を壞色とて六物圖は此三色須
離俗中五方正色及五間色と見ゆとせむ佛家の青黒も青黄赤白黒の正色の青黒も非は即青も銅青
黒も雜泥也然も此令に於ては其三種の壞色を用ひ以亦五方の正色より依らば別の中を取て
宜を制玉へり故に釋は木蘭者黃橡蒲菊等色是又似緑而鈍不明也と何る六物圖の赤黒色は粗らふ
へると猶彼は比ぶるを花や也青碧ハ青と碧と釋は紺色謂之青緑色謂之碧也と見ゆ阜も玉篇
に黒也と何る壞色ハ釋は涅槃經に失錯常色是也假如藕芳紫色洗壞之類其色不正而醜也と見ゆ今
の鼠色の黒き也さて佛家の制むる青黒木蘭の三色のこふるを令條にては其色を斟酌して醜う
ら淫染とせしめ黃の正色碧の間色并同名異色の壞色を制し并せて六色と玉へり其中に玉や
や美しく見ゆるものほど紅紫の如き艷色も何るを道服にて難ふるべきを以て也此
條の事別記にいへり

男女不限年多少古記云依古今
男年十五以上女年十三以上

婚嫁聽之依此條制之この法
二拘囚臨時の斟酌の事云
其所由人とも義解の謂所停僧
尼とあり如く俗人を停僧
僧尼也其被停男女者自依首
徒律の首徒と唐名例律の諸
共犯罪以造意為主隨從者減
一等とあり如くされも男
女の方より起て強て停僧
とも僧尼のうへは首徒
二拘囚も僧尼より起
りて停めざるは男女を
從あり後紀弘仁三年四月敕
檀越有可勾當寺内雜事者聽
暫入不得因此經宿留連と見
えこれ寺家の事一就ても
止宿せざる也
死病者問ハ師主と非といへど
も聽されざるは梵網經の佛
子見一切疾病人云云不救濟

者各十日苦使謂衣冠並著也輒著俗衣者
縱不並著犯其一者亦須依佛法論也 百日苦使
凡寺僧房停婦女尼房停男夫謂男女不限年
之多少但須臨
時斟酌之也 經一宿以上其所由
人首徒律但僧尼者雖是為從猶科
苦使不合 十日苦使五日以上三十
減罪也 日苦使十日以上百日苦使三綱知
而聽者同所由人罪

者犯輕垢罪也
功德釋云造佛經之類也
謂服餌者云云の義解誤脱多し
今集解を以て改む避一本辟
二作漢書張良傳注服辟
穀藥而靜居行氣の辟也
申官判下云在京三綱經僧綱
僧綱經玄蕃玄蕃經治部治部
申官未知國司直申官哉為當
先經玄蕃哉又官受取行之何
答依文徑申官官判下耳但官
勘知事由并弁史共署印下耳
申官判下為一句也下謂判下
書也然則判下官判下也とい
へる如し
凡任僧綱云云僧綱の在所令條
二於て其所をさく於養老六
年七月續紀其僧綱者宜以
藥師寺常為住居といはるも綱
所も藥師寺あり釋云大寶二

凡僧不得輒入尼寺尼不得輒入僧寺
其有覲省師主及死病者問謂雖非師主皆
聽者聽者齋戒謂齋會也功德謂修善也聽學謂學問也者聽
凡僧尼有禪行謂禪靜也修道意樂寂靜不
交於俗欲求山居服餌者謂服餌者避穀服藥
而靜居行氣也雖不三綱連署在京
者僧綱經玄蕃在外者三綱經國郡

年正月太政官處分任僧綱者
在京諸寺僧請集樂師寺仍大
弁一人史二人式部輔一人丞
錄各一人治部女蕃主典云云
少弁以上大夫宜命弁官式部
左列治部右列

謂律師以上の下論事者云云の
百九十七字京本より釋文
の攪入あり今これを削る
浪舉無德者穴云阿黨朋扇浪舉
无德者明知非有阿黨朋扇者
无罪朱云无德被舉無罪只
解退耳

若有過罰云云穴云若有過罰依
上法簡換未知本罪免哉答不
令免也換後依法苦使也今說
本罪可免案於僧綱任符為苦
牒之說可免但於公驗為苦牒
之說不可放免也この説義解
は異也并せ考へ

老病穴云老者六十以上也病者
日限不見但量狀耳古記云老
謂七十以上合致仕也病謂長
病尪弱不堪仕也
簡換の下京本也云云廿一字は
り集解攪入ふれと削る

苦使釋云道僧格云有犯苦使者
三綱立案門鎖而放一空院内
令寫其經日課五紙檢紙數滿
足者放出若不解書者遣執土
木作修營又老少量臨時
佛殿古記云謂塔金堂法堂之類
是也食堂步廊等類者非也
丹聖の聖音惡塗也

不可倍使の倍字京本陪と作る
集解同一倍と字彙と物相二
曰倍とれと所縦の三綱を苦
使はせむ被縦僧ハ苦使と成
これ相二つともぬ也と集解
の陪と依とむ陪と字彙と滿

勅實並録申官判下山居所隸國郡
謂假如山居在金嶺者
判下吉野郡之類也 每知在山不

得別向他處

允任僧綱謂律師以上必須用德行能

化徒衆道俗欽仰綱維法務者 謂僧

僧正僧都律師也德行者内外之稱
也在心為德施事為行也綱維者張
之曰綱持之曰維言張
持法務令其不傾弛也 所舉徒衆皆

連署牒官若有阿黨朋扇 謂阿黨者
阿曲朋黨

也朋扇者朋
黨相扇也 浪舉無德者百日苦使

一任以後不得輒換若有過罰及老

病不任者 謂過罰者十日苦使以上
也僧綱若犯此罪者唯解

其任不更苦使也老病不任
者緣老若病不任其事也 即依上

法簡換

允僧尼有犯苦使者修營功德 謂書寫
經典莊

料理佛殿 謂丹聖塔
及灑掃

謂灑散水即洒掃堂宇其斫斧春稻
之役非道人所可親故立其限制使

也。何。た。と。へ。十。日。の。苦。使。を。三。綱。阿。容。し。て。五。日。縱。は。時。を。殘。り。五。日。を。三。綱。科。せ。被。縱。し。僧。も。十。日。の。苦。使。を。滿。し。む。べ。く。は。の。義。也。い。づ。を。よ。も。通。は。

二罪法とも罪二つ有て、一杖一百、一杖六十あるとき、二ありとも科せ、一の重き方を以て罪はらむ。僧尼もかくの如し、本罪の苦使六十日あるを請求す所ありて聽したる時、その請求を聽せざる罪、百日苦使ありゆゑ、六十日のより依らで、百日を三綱科はる也。若又本罪のより、百日苦使より重けきを請求を聽き、罪の百日を棄て、本罪を以て三綱科はる也。

不_レ浪_二等_一使_レ須_レ有_二功_一程_レ若_二三_一綱_レ顔_レ面_レ不_レ執_レ也

使者_レ即_レ准_レ所_レ縱_レ日_レ罰_レ苦_レ使_レ謂_レ顔_レ面_レ面_レ柔_レ也_レ言_レ犯_レ

苦_レ使_レ僧_レ無_レ所_レ請_レ求_レ而_レ三_一綱_レ自_レ阿_レ容_レ不_レ使_レ者_レ即_レ准_レ所_レ縱_レ日_レ多_レ少_レ反_レ罰_レ苦_レ使_レ若_レ

雖_レ不_レ滿_レ十_一日_レ猶_レ亦_レ准_レ所_レ縱_レ須_レ苦_レ使_レ其_レ被_レ縱_レ僧_レ者_レ不_レ可_レ倍_レ使_レ何_レ者_レ下_レ文_レ云_レ輒_レ

許_レ之_レ人_レ與_レ妄_レ請_レ人_レ同_レ罪_レ即_レ明_レ非_レ妄_レ請_レ者_レ不_レ可_レ科_レ罪_レ也_レ其_レ有_レ事_レ故_レ

須_レ聽_レ許_レ者_レ並_レ須_レ審_レ其_レ事_レ情_レ知_レ實_レ然_レ後_レ

依_レ請_レ謂_レ事_レ故_レ者_レ身_レ病_レ及_レ父_レ母_レ喪_レ之_レ類_レ

也_レ依_レ律_レ有_レ所_レ請_レ求_レ已_レ施_レ行_レ者_レ各_レ杖_レ一_レ百_レ然_レ則_レ妄_レ請_レ之_レ人_レ者_レ本_レ罪_レ之_レ外_レ更_レ合_レ

從_二重_一者_レの從_レ字_レ京_レ本_レ追_レ作_レる_レ集_レ解_レ遂_レ作_レる_レ東_レ本_レ是_レ從_レ今_レ一_レ本_レ依_レる_レ

防_レ其_レ猶_レ為_レ僧_レ尼_レこ_レと_レ已_レが_レ法_レ名_レを_レ他_レ人_レと_レ與_レへ_レて_レ其_レ人_レを_レ已_レが_レ代_レに_レし_レて_レ僧_レ尼_レと_レ名_レ乗_レせ_レ已_レも_レ本_レの_レま_レま_レ僧_レ尼_レと_レ居_レる_レも_レ何_レも_レ正_レしく_レ公_レの_レ大_レ御_レ寶_レと_レ民_レと_レて_レ僧_レ尼_レと_レある_レ事_レあ_レれ_レを_レ輒_レく_レ聽_レく_レも_レ不_レ可_レき_レも_レな_レら_レず_レを_レ然_レ一_レ人_レの_レ名_レを_レて_レ二_レ人_レ僧_レ尼_レと_レあり_レお_レる_レも_レ公_レの_レ為_レ損_レ有_レて_レ益_レな_レり_レ故_レに_レ猶_レ僧_レ尼_レと_レを_レ防_レく_レ也_レ

公_レ驗_レと_レ度_レ牒_レの_レ事_レ也_レ依_レ律_レ科_レ罪_レと_レ古_レ記_レ云_レ案_レ戶_レ婚_レ律_レ

人與妄請人同罪

百日苦使、其輒許三綱者、依二罪法、本罪與施行杖一百從一重者、科之也。如有意故無狀輒許者、謂犯苦使許之狀、而貨賂潛行囑託、屢進三綱受容、挾情輒許者也。輒許之

凡僧尼詐為方便移名他者

謂僧尼以已公驗授

與俗人、令其為僧尼、其本僧尼者、或猶為僧尼、或還成白衣、皆同。但防其猶為僧尼、故立還俗依律科罪、其所還俗之文也。

由人與同罪

謂所由人者、俗人受公驗、為僧尼也、與同罪者

私入道及度之者杖一百謂僧尼等非法度而私入道及度之者已除實者徒一年謂度之者亦同罪本國主司及僧綱知情者與同罪謂私入道人所屬國

郡司及僧綱并所住寺三綱知情者也案上文移名本僧以違令罪論新僧以私入道論下文方便移名並以私入道論也

九穴一依律科罪謂百杖以下還俗无加罪徒罪依下條還俗即以告牒當耳朱云移名他還俗依律科罪謂度之并除貫罪依律科不用告牒也

所由人ハ穴云被移名俗人耳佐官の事法隆寺流記云天平廿年六月十七日佐官業了僧願

法佐官兼藥師寺主師位僧勝福云と見ゆ綱所の録事也天武記二年十二月加佐官二僧

其有四佐官始起于此時也と云釋云大寶三年正月廿三日太政官處分任僧綱之佐官僧者申官而後補任解任亦同

衆事義解の衆僧之事也といはる云と穴之餘衆事亦同朱云謂寺内諸事といへるは徒一

功德古記立塔柱之類九僧尼不得私畜園宅財物法曹至要云案之僧尼出家除貫之

者也身離貪婪心食忍辱三衣一鉢之外不可畜財物若遺財之中有佛具衣鉢之類是緣身資用分與可无其妨自余財物不可與之云僧尼遺物弟子可傳領夏名例律云僧尼於其師與伯叔父同於其弟子與兄弟子同戸令云无子者聽養四等以上親於昭穆合者說者云四等以上者謂兄弟之子儀制令五等親義

解云兄弟之子猶子引而進之案之遺財處分雖為俗人設法為僧尼不立制只以因准之文可案折中之理假令僧尼身死有遺物有弟子聖經經論之類相讓諸法之者便可傳得自余佛具衣鉢之類各隨狀可均分是則准俗人之法兄弟之子猶子至叔養之時為得分之親今僧尼於其弟子可比俗人之養子欵但准養子之条隨事可案得欵

與販出息古記云既稱出息即知无利借貸者不禁無處可隱云云五位以上と云四位以下と云僧尼若四五位と遇馬を斂て相揖して過く若僧尼歩めを隱さて四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

准還俗罪合徒一年也

九僧尼有私事訴訟來詣官司者權依

俗形參事謂依俗形者既為俗形即須稱俗姓名也參事者參對官司申論事緒也其佐官謂僧綱之錄事也以上及

三綱為衆事謂衆僧之事也若功德須詣官

司者並設床席

九僧尼不得私畜園宅財物及興販出

息謂畜者聚也其尋常所須及緣身資用如此之類不在禁限然不得

仍出息興販也興販者賤買貴賣也

出息者貸物生子九僧尼犯此法者其物皆沒官也

九僧尼於道路遇三位以上者隱謂若無處

可隱者歛五位以上斂馬相揖而過

馬側立也

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

其有四五位の人を下馬と云めさる也然るも集解云五位下馬耳釋云一云五位不可下馬と見えて

僧尼の歩行し過り時下馬はるし、せざるの異論ありといへども、又集解に神龜五年三月廿八日格云、外五位若有歩行僧尼、忽逢道路者、下馬過去也。云云、案有此制、則内五位不下、故と見えて、外五位も下馬はるること、明らかれども、内位も至るを、下りぬるべし。

若歩者隱

凡僧尼等身死三綱月別經國司國司

每年附朝集使申官其京内僧綱季

別經玄蕃亦年終申官

凡僧尼有犯准格律合徒年以上者還

俗許以告牒當徒一年

謂格者臨時詔敕也律云

凡僧尼有犯云云、合徒年以上者、の有字、京本者、作、合字令、二作、今集解要畧法曹至要等、依て改む

告牒と公驗あり、續紀養老四年

正月、始授僧尼公驗、二度縁

と、二入、玄蕃式、省先責手實

申官、與民部共勘籍、即造度縁

一通、省察僧綱共署、向大政官

請印、即授其身

律云、事有時宜、二事字以下十五

字、唐斷獄律の疏議の文也

元為俗人設法の元字、京本无、二作、誤也、集解を以て改む

依律雜犯死罪者除名、二名例律

其雜犯死罪即在禁身死若免死別配及背死逃亡者並除名とありて、其本注、謂本犯合死而獄成者とあり、

亦先還俗然後處死云云、還俗即俗人の除名と同一とされと俗人の死罪も先除名は僧尼の死罪もまづ還俗は

其流罪者比徒四年、名例律云、當以官當流者三流同比徒四年、疏云、八位以上犯流不合真配、既須當贖所以比徒四年、假有八位犯私罪流以四官當之、无四官者准徒年當贖、故云三流同比徒四年、

加役流と云、髡髮して配役はる者也、名例律云、凡犯流應配者三流俱役一年、疏云、本條稱加役流者、配遠處役三年、不得以告牒當とハ上といへる

事有時宜、故、人主權斷、詔敕、量情、處分、是也、其格律者、元為俗人設法、不為僧尼立制、是以稱准也、徒年以上者、死罪以下也、告牒者、僧尼得度、公驗也、依律雜犯死罪者、除名、即知僧尼、犯死罪者、亦先還俗、然後處死、其流罪者、比、徒、四年、以、告、牒、當、徒、一、年、其餘三年、依下文、役、身、也、若犯、加、役、流、者、亦、還、俗、而、配、流、不、得、以、告、牒、當、即、至、配、所、不、免、居、作、也、

餘罪者依律科斷

謂假有犯徒二年者、以告牒當一年

徒、其餘一年者、依律、役、身、其、犯、徒、以、上、還、俗、之、後、猶、有、餘、罪、藉、父、祖、蔭、應、得、減、贖、者、一、依、如、犯、百、杖、以下、每、杖、俗人之法也

如、流罪を徒四年に比して、一年ハ告牒を以て當らるれども、加役流ハ罪重きゆゑ、告牒を以てハ當らぬ也。
依律科斷義解、依、徒二年犯、一年ハ身を役びしより也。充、一年ハ身を役びしより也。依律の律、名例律あるを、彼、載、たる所、先、以、官位當、次、以、勲位當、云、云、若有餘罪、及、更、犯、者、聽、以、歷、任、之、官、當、と、見、え、て、俗、人、も、官、職、あり、官、位、あり、勲、位、あり、徒、年、も、當、て、贖、べ、き、物、多、け、き、と、僧、尼、も、僧、綱、師、位、以、上、の、外、ハ、た、告、牒、の、こ、れ、も、此、俗、人、の、律、に、准、て、科、斷、は、し、い、へ、と、も、告、牒、を、一、年、徒、に、當、て、未、得、餘、罪、の、と、も、身、を、役、び、し、也。
父祖蔭の父祖二字、京本文但、

十令苦使十日若罪不至還俗及雖
應還俗未判訖並散禁
謂犯苦使已
網者散禁若未經斷者付寺參對其
應還俗判斷已訖者一同俗人之禁
法也
如苦使條制外復犯罪不至還俗
者
謂准據格律所犯之罪既非苦使
亦非還俗故付三綱量事令科罪
是內法之制非俗律之科其違令違
式及舉輕明重并不應得為等類者
並律有科條不
可更依佛法也
令三綱依佛法量事
科罰其還俗并被罰之人不得告本

作、誤、也、集、解、を、以、て、改、む、應、得、減、贖、者、ハ、二、事、也、名、例、律、
1. 凡七位勲六等以上及官位
勲位得請者之祖父母父母妻
子孫犯流罪以下各從減一等
之例、此、減、也、凡、應、議、請、
減、及、八、位、勲、十、二、等、以、上、若、官、
位、勲、位、得、減、者、之、父、母、妻、子、犯、
流、罪、以、下、聽、贖、此、贖、也、
散禁とも枷拵を用いて一室
に能居せしむる也。
未付三綱者云云の義解、本
文の義を解するは、本
文も還俗すべきの罪にて、本
罪重し、義解と苦使ありゆゑ
2. 本罪輕し、輕けきとも、是も
散禁也、未、經、斷、者、云、云、
還俗すべき者の未判斷も
あり、苦使の未斷ありゆゑ
1. 又いと輕くて、參對のこ也。

寺三綱及眾事
謂還俗之人至于終
身被罰之僧苦使之
間並不
得
告言也
若謀大逆謀叛及妖言惑
眾者
謂以妖言而惑三人以上即雖
妖言而不惑眾者不可告言也
不在此例
凡有私度及冒名相代
謂冒履也言甲
冒承乙名而官
司不覺與度或詐受身死
僧尼名相代為僧尼者也
并已判還
俗仍被法服者依律科斷師主三綱
及同房人知情者各還俗
謂此唯據
私入道未

參對ハ有司の拘ハ事ハ何
ら依寺ヲ阿づけて番を
ス也皆本文の餘意をいへり
一依俗人之法トハ還俗をぬ
も僧尼あるゆゑ陰位を用
きゆうぢといへども還俗
を本貫ヲ歸るゆゑ父祖
の陰を用ふ也

如苦使條制外讚云是假令為殺
生及不齋食不行六時造網賣入之類皆條制之格也此令无此格也故云外也云云跡記云如此之類俗官
不能斷定者對三綱勘内法令斷決也私思如此小罪於寺内事發者必不經俗官三綱任科罰之但為俗官
告訴者同跡云也

其違令違式云云雜律云違令者笞五十違式減一等之也舉輕明重也集解問文舉謀大逆不云謀反意
答是舉輕明重耳と見ゆま不應得為之雜律云諸不應得為而為之者笞四十謂律令无条理不可為者
事理重者杖八十

被罰の罰字一本東本は徒ふ
若謀大逆謀叛云云寺中よりこの重罪を犯は企ゆるを知り時ハたとへ被罰の間といへり告べ
と也集解問文舉謀大逆云云の十八字の義解混して載り今除きて標注とす謀大逆
謀叛を舉て謀反を舉るハ即これ舉輕明重の義也
冒名相代の身智行を積まば公驗を得る由あり依りて事をなはす也續紀寶龜十年九月癸

除貫若知已除貫
者自依格律條
雖非同房知情容

止經一宿以上皆百日苦使即僧尼

知情容止浮逃人經一宿以上者亦

百日苦使本罪重者依律論
謂假如
知情容
止反逆
之類也

凡僧尼等令俗人付其經像歷門教化

者百日苦使其俗人者依律論
謂既
云僧

尼令俗人歷門教化即明僧尼是為
造意其俗人者自依從減一等之律
合杖九十也

凡家人奴婢等若有出家
謂稱等者官
戶奴婢亦同

其依内教奴婢者不許出家而此稱
出家者緣其入道免賤與度故也

未救僧尼之名多冒死者心狹
奸偽犯亂憲章就中頗有智行
之輩若頓改革還辱緇侶宜檢
見數一與公驗とら考べ
依律科斷の下京本私戸婚律注
云斷後陳訴者須著俗衣仍被
法服者亦徒私度科杖一百也
の廿九字の集解の攪入也
故は彼を除て此は載は
謂此唯據私入道云云の廿二字
本文は應を不審也
浮逃人朱云浮逃二事也これ浮
浪人と逃亡人と也
經一宿以上釋云捕亡律云凡部
内容止他界逃亡浮浪者一人
里長宮卅註曰經十五日以上
者但於此今經一宿即坐
若本罪重者依律論古記云依律
論謂捕亡律凡知情藏隱罪人
若過致資給令得隱避者各減

罪人罪一等也。

凡僧尼等。朱云未知等字意。何答僧尼廣多。故稱等字也。これ上茶僧尼等身死云云の朱説も同し。

僧尼是為造意。唐名例律云。諸共犯罪。以造意為首。隨從者減一等。これ從減一等の例あり。

稱等者。官戸奴婢亦同。といふ。本文。家人と私奴婢とを擧たるに依て。義解。官戸も公奴婢も共。同きを知せたるの也。

其依内教とし。四分律行事抄資持記云。奴者。僧祇云。若家生。買得。抄得。此彼不得。他與奴。自來奴者。聽度。今有人放奴。出家者。若取。出家功德。經。若放奴婢。及以男女。得福。无量。律中。不明。放者。但言。自來。投法。度之。是非。非。

後犯還俗及自還俗者並追歸舊主

各依本色其私度人縱有經業不在

度限謂責其初犯法制故不聽其度若改正之後更應得度者不在

禁限也

凡僧尼有犯百日苦使經三度改配外

國寺謂已發更犯是也即與上條再犯義同其第三度百日苦使者

為其外配不更苦使也若前犯二百日苦使其役未畢者便於配所而役之其三犯百日苦使止數赦降之後為坐與律三盜徒流義同也改配外

國寺者若外國僧尼有此三犯者不可更移配他國也仍不得

配入畿内

凡齋會不得以奴婢牛馬及兵器充布

施謂若違法法輒充及受之各當違令之罪仍准上條僧尼畜財物法其物皆須沒官之也

其僧尼不得輒受

凡僧尼不得焚身捨身若違及所由者

並依律科罪

各依本色といふ家人ハ家人私奴婢と私奴婢官戸と官戸公奴婢と公奴婢各其色ノ歸也。已發更犯の更字。京本再作。集解を以て改む。已發更犯といふ。始め犯せり百日の苦使。いまだ斷決せざる内。又更。百日苦使を犯せり。云。此。經。三度。といふ。百日苦使を三度犯せり。なれども。後の一度。外國の寺。配。以。り。ゆ。え。苦。使。は。依。て。百。日。苦。使。を。二。度。以。り。を。已。發。更。犯。と

いへるなり。與上條再犯義同とあり。凡僧尼有事須論云云者五十日苦使再犯者百日苦使の文を指
せり也。彼ハ五十日を再ひ。此ハ百日を再ひて其數ハ異なり共其意ハ同一けり。義同といへる
所の也。

止數赦降之後云云。唐律釋文。降者即赦之別文。赦則罪无輕重。降則減重就輕とあり。是赦と降との別也。
賊盜律。凡盜經斷後更行盜前後三犯徒者近流。三犯流者絞とあり。是を三盜徒流とあり。此注。三盜
止數赦後為坐。謂斷赦後三犯者。不計赦前犯狀為數とあり。是赦後を數て坐を為しむる例也。
又疏。若有三犯死罪會降皆至流徒。或一兩度止犯流徒。或一兩度從死會降。惣成三犯者。律有赦後之文
不言降前之犯とあり。是降後を數て坐を為しむる例也。とれを其律文をこの令條に准へ考ふればと
へ。赦あれ。前犯二百日の苦使して降。百日の苦使して皆赦して。赦後一犯も罪に依て改て罰
せらるる也。降も。前犯二百日の内。五十日降とるれ。百五十日殘るるを。後犯百日ハ外國の寺に
配らるゆゑ免さる。依之との外國の寺に於て。殘るる百五十日の苦使をせらるるべし。但律に
てせて論へ。うち所を何とせども。彼律疏に云へるハ。重き死罪のうへこれに輕き苦使の事
れを。たわよく就て看すべし。

凡齋會云云及兵器克布施也。田令二十六条とありて解べし。

焚身捨身古記。焚身謂燈指燈盡身也。捨身謂剥身皮。寫經并稱畜生布施而自盡山野也とあり。若違及所
由とあり。違ハ僧尼の制にたがひて。焚身捨身はをり。即首也。所由は是を許さる三綱の類をさし
即從也。る。依律とあり。即上あり。以造意為首の標注に引る。唐名例律をさし也。

